＊竹田市感染症情報（竹田市独自集計）＊

令和8年第43週（10月19日～10月25日）



今週は、様々な感染症の報告がありました。

手洗い・咳エチケット・換気などの基本の感染対策にしっかり取り組みましょう。

インフルエンザについて

今週、竹田市調査医療機関から報告された患者数は12人で、3週連続で減少しました。報告されたウイルスは、すべてA型でした。大分県全体では定点あたり報告数が6.81人と、先週の5.97人から増加しました。

水痘(みずぼうそう)の報告がありました

今週は、1名の報告がありました。

水痘(水ぼうそう)は、水痘・帯状疱疹ウイルスによる感染症です。発熱に続いて、かゆみを伴う発疹が現れ、水疱になった後、かさぶたへと変化します。発疹が現れる1～2日前から、すべての水疱がかさぶたになるまで感染力があります。発症した場合、すべての水疱がかさぶたになってから、登園・登校が可能になります。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)について

今週は、1名の報告がありました。

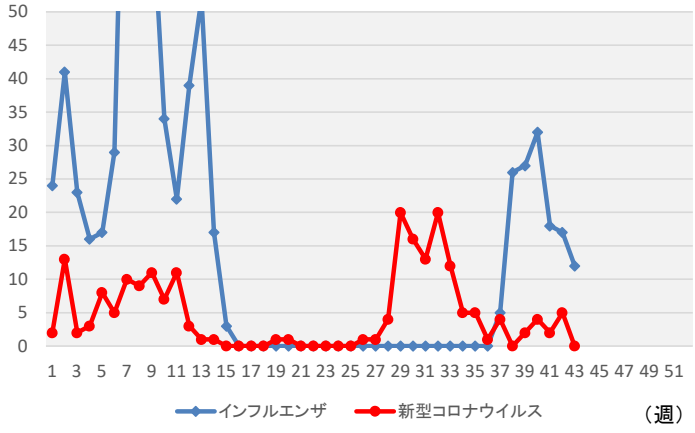
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、ムンプスウイルスによる感染症です。咳やくしゃみなどで感染し、耳の下や頬の腫れ、発熱、飲み込むときの痛みなどが主な症状です。通常は1～2週間で軽快しますが、髄膜炎や難聴などを合併することがあります。

ワクチンは任意接種です。接種を希望される場合は、かかりつけの病院にご相談ください。

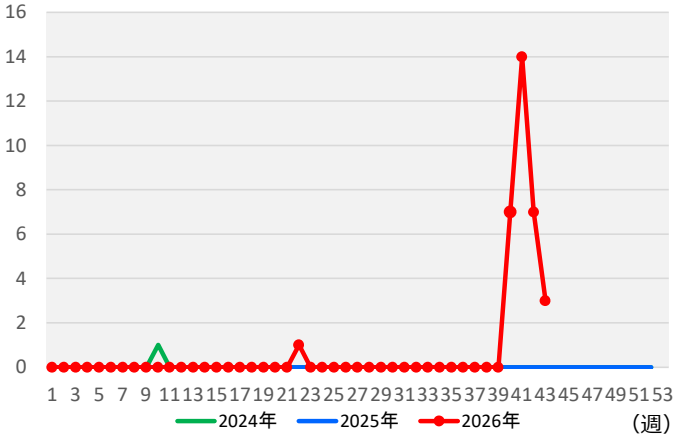
（第４３週）　　（調査医療機関8か所の総患者数）

疾患名 / 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱（プール熱）	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（みずぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎	麻しん（全数報告）	風しん（全数報告）	百日咳（全数報告）	つつが虫病（全数報告）
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳					3					1				1					
4～6歳																			
7～9歳																			
10～14歳																			
15～19歳								1	1										
20歳以上	12							1											
今週	12				3			2	1	1				1					
	12																		
70歳以上（再掲）																			
先週	17			5	7			3						1					

（人）　インフルエンザ・新型コロナウイルス報告数　推移



（人）　ＲＳウイルス竹田市8医療機関総数



大分県豊肥保健所　作成

厚生労働省

日本全国、みんなで予防 インフルエンザ!

インフルエンザの予防には
みんなの「かからない」、
「うつさない」という気持ちがとても大切です。
手洗いでインフルエンザを予防して、
かかったら、マスク等せきエチケットも
忘れないでください。



インフルエンザ
予防啓発キャラクター
マメゾウくん

マメに
マスク

マメに
手洗い

インフルエンザ
予防啓発キャラクター
アズキちゃん

●インフルエンザに関する情報　インフルエンザ　検索　http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html

---

感染症対策

RSウイルス感染症

に注意しましょう

こんな症状がみられます



かぜのような症状が数日続き
多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は
細気管支炎、肺炎などを起こします

生後6カ月以内の新生児・乳児への感染や、低出生体重児、心臓・肺・神経・筋肉などに基礎疾患がある場合や免疫不全がある場合などには重症化の可能性が高まります。

流行時期

初夏ごろから
継続的に増加となり
夏にピークになると
みられています

感染経路

飛まつ　接触

2歳までに ほぼ全員が
少なくとも 一度は感染します

こんな時は

機嫌がよく、つらそうでなければ、
あわてずに様子をみて、かかりつけ医に
ご相談ください。呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができない時は医療機関への受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急」などのWebサイトを参照したり、#8000(こども医療電話相談)にご相談ください。

こどもの救急

予防



こどもを感染症から守るために、家族や周囲のおとなも しっかりと予防しましょう

2026年度から、妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が、予防接種法に基づく定期接種の対象になりました。RSウイルスワクチンを妊娠中に接種することで、乳幼児の肺炎・細気管支炎の主要な原因である、RSウイルスの感染を防ぐことができます。

詳細については、医師にご相談ください。また、高齢者が感染すると重症化することがありますので注意してください。

厚生労働省
RSウイルス感染症Q&A
感染症対策課　2026年4月作成

感染症危機下において実施が推奨される基本的な感染対策

①換気

換気によって、空気中のウイルス等を外に追い出すことができます。

必要な換気量が確保されているかを確認する方法としては、二酸化炭素濃度測定器（CO2センサー）の活用等があります。



空気の通り道を設けることが重要です

②マスク着用等の咳エチケット

咳エチケットによって、ウイルス等を含んでいる飛沫が広がるのを防ぐことができます。

ある程度、飛沫感染等を防ぐことができる不織布（ふしょくふ）製マスクがおすすめです。



③手洗い

手洗いによって、自分の手に付着したウイルスを減らすことができます。

流水で手を洗えないとき、手指消毒（消毒用エタノール等による）も有効です。



指の間や手首も忘れずに。

④人混み回避

感染症危機下でも、人混みを避けることによって、感染機会を減らすことができます。

熱や咳等、体調不良を感じている人は、人が多く集まる場所に行かないようにしましょう。

特に 高齢者 基礎疾患のある方 妊婦 体調不良の方 は、人混みや密集回への外出を控えましょう。



感染症の特性や状況の変化に応じた最新の情報や対策については、厚生労働省などの公式ウェブサイトやSNSにて随時更新しますので、ご確認ください。

内閣感染症危機管理統括庁　厚生労働省

マスクや手指消毒薬など ご家庭や職場でも 備蓄しておきましょう!